

議事録

会議名 令和8年度 第1回 村上市総合計画審議会

開催日時 令和8年4月30日(木)

会場 村上市市役所 本庁 大会議室A・B

出席者 【委員】
青山委員、飯塚委員、岩佐委員、佐々木委員、宍戸委員、長島委員、畠山委員、八藤後委員、仲委員（オンライン）
【村上市 企画戦略課】
山田課長、田村室長、横山係長、増子係長、相馬主査、井上主査

発言者	議事内容
事務局	1 開会[進行]
事務局	2 挨拶[進行]
市長	[あいさつ]
事務局	3 委嘱状の交付[進行]
市長 委員	[委嘱状交付]市長→青山委員
事務局	4 正副会長の選出[進行]
会長 副会長	[会長に宍戸邦久委員、副会長に八藤後委員を選出] [宍戸会長、八藤後副会長 席移動]
会長	[あいさつ]
副会長	[あいさつ]
事務局	5 諮問[進行]

発言者	議事内容
市長 会長	[諮問]市長→宍戸会長
市長	[市長退席]
事務局	[審議会について説明] [進行を宍戸会長に依頼]
会長	6 報告(1)総合計画審議会の審議体制及び策定スケジュールについて[進行]
事務局	[資料説明]
会長	資料のスケジュールについて、本日はフェーズ①、方向性の共有・合意ということで了解しました。フェーズ②で第1回専門部会と第2回専門部会が5月と6月に分かれているが違いは何か。それぞれ主にどのようなことを予定又は期待しているのか。
事務局	第1回と第2回は、特に内容を分けるものではなく、第1回で基本計画部分を議論し、そこで関係団体等から出た課題や現状を関係課と詰め、ブラッシュアップさせて第2回に臨むと考えている。
会長	現状・課題・施策に関して、専門部会の委員の皆様から意見をいただき、その場で答えられるものは関係課から回答するが、持ち帰って、あるいはその場で答えたことも含めて、意見を踏まえて第2回に臨み、第2回では市からの考えを報告し、またそれに対して深掘りをしていくというイメージでよいか。
事務局	そのようになる。第1回に提示する資料はあくまで市の考えで作った資料で関係団体等の意見が入っていないので、意見を踏まえて第2回の資料となる。
会長	資料1の右下の枠内の審議会委員について、赤い字で「今年度の現行委員9

発言者	議事内容
	人を再任」とあるが、これはいつの資料か。
事務局	失礼しました。前年度からの継続となる。
委員	資料2の第1回・第2回の専門部会について、第1の専門部会と第4の専門部会についてはこの5月、6月に会議があるが、他の専門部会はないのか。
事務局	他の専門部会は、5月28日、6月29日にまとめて開催という形。第1専門部会、第4専門部会だけが、日程の調整の都合上、別日になったということ。
会長	6報告(2)令和7年度実施 実態調査結果等の報告について[進行]
事務局	[資料説明]
委員	アンケートについて確認だが、特に市外在住者についてどのように対象者をサンプリングしたのか。
事務局	近隣市町村である関川村、胎内市、鶴岡市、新潟市、新発田市のモニター登録者に対し、一斉にメール配信を行い、回答数が500件に達した時点で受付を締め切る形でアンケート調査を実施した。結果は500件分となっている。
委員	なかなか貴重な情報である。このアンケートは、世代別、年代別には意見の違いはあるのか。
事務局	世代別にもアンケート結果を集計している。本日は、世代別・年齢別の分析までは行っていないがデータとしてはある。
委員	子育てヒアリングの聞き取り調査を実施した場所について、全市的に行ったのか、それとも山北地区だけか。

発言者	議事内容
事務局	調査は2ヶ所で行った。1ヶ所目は情報センターであり、子育て支援センターが実施するクリスマス会当日に、村上市内の各地区から子ども連れの保護者が集まる機会を活用し、聞き取りを行った。もう1ヶ所は山北そらいろ保育園であり、送迎時の保護者から聞き取りを行った。
委員	資料4について、若者の流出や総人口の推移などいろいろあるが、男女別に分けた結果はあるか。
事務局	総人口については、男女別は作成していない。
委員	県の調査によると、若者については、男性よりも女性の方が県外へ多く流出する傾向がある。村上市の場合は、県内他市への転出が多いとのことであるが、今後は男女別の転出状況についても分析材料になるのではないかと思う。特に、女性人口の減少は人口減少にも大きく影響することから、男女別データには一定の意味があると思う。
委員	2点目だが、資料5の左上の住み心地について、経年変化で令和7年度が厳しい状況になっているということだが、住みにくい理由として公共交通機関が一番高くなっているが、これは公共交通機関の充実度が同じなのに住み心地が悪く思っているのか、公共交通機関が少なくなったから住み心地が悪くなったのか、それによって検討の方向も違って来るかと思う。買い物の場所やその利便性なども関係して、そのようなところから住みにくくなったと意識しているのではないかと感じる。
委員	資料4右下の社会増減（転入・転出）について、転出は東京圏への流出というよりも県内移動が多いとの説明であったが、転入の状況はどうか。県内へ転出した後、親の介護や子育てを契機に戻ってくる人がどの程度いるのかは重要な視点であると思う。また、転入者がどの年代で戻ってきているのかといった傾向が把握できるとよいと思う。
委員	もう一点、資料5の重要度と満足度のマトリックスについて、重要度が高く満足度が低い、いわゆる優先的に対応すべき5項目について説明があった。前回も申し上げたかもしれないが、一方で、資料には記載されていないもの

発言者	議事内容
	<p>の、防災、消防、道路など、重要度・満足度ともに高い分野について、なぜ評価が高いのか、どのような点が評価されているのかを分析することも必要ではないかと思う。課題や不足している点だけでなく、良い点をさらに伸ばしていく視点から総合計画を検討することも重要であると考え。機会があれば、なぜ満足度・重要度が高いのかといった意見についてもお示しいただきたい。</p>
会長	<p>要因について、アンケートでは深掘りしているのか。</p>
事務局	<p>重要度が低いものについては自由意見から要因を把握しているが、高いものについては把握していない。</p>
会長	<p>一般論だが、「課題の解決」という言葉を使う場合、マイナスを減らす、場合によってはゼロにするということが課題の解決。日本社会においては課題の解決というと、これをなくしていく方ばかり見ているが、プラスをさらに伸ばしていくということも課題の解決である。</p> <p>前者を問題点というのであれば、後者は可能性である。論者により使い方は違うが、両方あるということである。今度総合計画を作るに際しては問題点ばかりでなく、可能性をさらに伸ばす対策も盛り込む、そういう視点も必要ではないかなと思う。</p>
委員	<p>資料4では、老年人口を65歳以上として整理し、将来推計を含めたグラフが示されているが、その中でも後期高齢者である75歳以上人口がどのように推移していくのか気になった。</p> <p>65歳から75歳までの層については、年金受給年齢ではあるものの、就労可能な方も少なくなく、仕事があれば働き続ける方も一定程度いると考えられる。</p> <p>一方で、75歳を超えると介護等を必要とする割合も高まることが想定されるため、「老年人口」として一括りにするのではなく、年代別により細かく分析することで、新たな可能性や課題が見えてくるのではないかと思う。</p>
委員	<p>2点目として、資料5の政策分野別検証の分布図についてである。先ほど説明のあった健康医療分野は、重要度が高い一方で満足度が比較的低い結果となっていた。一方で、内容的に一部関連すると考えられる消防救急、生活衛</p>

発言者	議事内容
	<p>生、上下水道などは、重要度はそれほど高くないものの、満足度は比較的高いという結果が示されている。</p> <p>健康医療分野の中でも、どの部分の満足度が高く、どの部分に不満があるのかについて、もう少し細かく分析することは可能なのか疑問に感じた。</p>
事務局	<p>健康医療という項目で選んでいただいております、その健康医療のどこかというところまでは、結果からは読み取ることができない。自由意見が約900件あるので、そこから読み取っていくしかないと思う。</p>
委員	<p>回答者がどのような点を意識して選択しているのかが把握できれば、一見相反するよう見える結果についても、さらに深掘りした分析が可能になるのではないかと思った。分析にはAIも活用しているとのことであるため、うまく活用することで、もう一段踏み込んだ傾向や課題が見えてくるのではないかと感じた。引き続き、分析結果等があればご教示いただきたい。</p>
会長	<p>会議開始前に事務局へ伺ったところ、自由意見が約900件あったとのことであり、これだけの件数をどのように整理・分析したのかと聞いていたが、AIを活用したとのことであった。</p> <p>先ほど指摘のあった内容についても、AIをうまく活用することで、一定の分析が可能になるのではないかと思う。</p> <p>また、資料5の追加資料についてであるが、示された5項目は自由意見をAIにより分析した結果とのことである。加えて、この資料の優れている点は、令和3年度と令和7年度を比較している点であり、これにより、課題の内容や傾向がどのように変化してきたかを読み取ることができる。</p> <p>さらに、5点目の「デジタル化へのストレス」について、高齢者の不安が顕在化しているとの説明があったが、ここで注意すべきなのは、令和3年度時点の高齢者と、例えば令和13年度時点の高齢者では状況が異なるという点である。</p> <p>現在の40代・50代はデジタルに比較的慣れている世代であり、10年後にはその世代が高齢者層となる。そのため、「高齢者はデジタルに不慣れで不安を抱えている」というイメージを固定的に捉えてしまうと、将来像を見誤る可能性があるため、注意が必要である。</p>
委員	<p>資料4の人口ビジョンについて、計画を策定していく上では、より詳細なデ</p>

発言者	議事内容
	<p>ータ分析が必要になるのではないかと思います。生産年齢人口であっても、障がい者手帳を所持しているなど、就労が難しい方が一定数いると考えられる。また、高齢者の中にも要介護度が高く、日常生活に支援を必要とする方がいる。</p> <p>そのような状況を踏まえると、単純な人口構成だけでなく、より細かな実態データを把握することで、必要となる財政面や支援施策など、見えてくる課題もあるのではないかと思います。そうしたデータ分析を行うことが、より実態に即した計画策定につながるのではないかと感じた。</p>
委員	<p>先ほど、ヒアリング結果をA Iで分析したとの説明があり、私自身も大きな進歩であると感じている。</p> <p>一方で、ヒアリングには、アンケートや一般的なやり取りでは把握しきれない新たな気付きや知見が含まれている場合がある。「このような見方があったのか」「このような技術や考え方があったのか」といった発見が得られる点も、ヒアリングの重要な意義であると思う。</p> <p>A Iによる分析では、全体傾向や共通項を整理することはできるが、平均化された結果になりやすい面もある。そのため、せっかく実施したヒアリングについては、時間が許せば、関係者や担当者にも実際の内容に目を通していただき、「このような意見もあったのか」という個別の気付きや発見を拾い上げていくことで、よりバランスの取れた分析につながるのではないかと思います。</p>
会長	7 議事(1)総合計画の体系(案)について[進行]
事務局	[資料説明]
会長	<p>今回、新たに盛り込む第3章の地方版総合戦略については、この総合戦略に位置づけた事業を国へ申請することで、交付金の対象となる仕組みであり、数年前から進められている計画である。今回の総合計画策定にあたっては、その総合戦略を一体的に策定していくということである。</p> <p>その上で、資料下段の赤字にも記載されているが、地方創生の取組は、高市内閣となった場合でも継続されるのか。</p>
事務局	国においては「地域未来戦略」が今年の8月頃に策定が予定されていること

発言者	議事内容
	<p>から、この第3章の地方版総合戦略もその内容によっては今後見直す可能性があると考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>現時点では、この構成を前提としているものの、今後、高市内閣において8月頃に「地域未来戦略」が閣議決定される予定とのことである。その内容を踏まえ、必要に応じて構成や内容を一部見直す可能性があるという理解でよいか。</p>
<p>事務局</p>	<p>そうである。</p>
<p>委員</p>	<p>これまで、子育て関係をはじめとした様々な審議会に関わってきた。例えば、保育園等の施設整備のあり方を検討する会議では、人口減少を前提として、施設をどのように縮小・再編していくかという議論になることが多かった。人口減少や地域の縮小を避けられない前提として議論を進める場面に、これまで数多く関わってきた。</p> <p>そのような中で、市民委員等からは、「後ろ向きな計画ばかりで残念である」「将来に希望を持てる要素を盛り込んでほしい」といった意見が出されることが多かった。</p> <p>今回の総合計画の審議においても、人口減少や地域の縮小を一定の前提として議論を進めるのか、あるいは、その中にどの程度希望や前向きな要素を盛り込んでいくのかが重要な課題になると感じている。</p> <p>市民が希望を失うような計画ではなく、将来に希望を持てる内容を盛り込んでいくことが重要であると考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>人口を増やすことのみを目的とした計画ではない。ご指摘のとおり、人口減少そのものを止めることは容易ではなく、その状況を前提として地域社会をどのように維持・発展させていくかが重要になる。また、人口が減少する中でも、市民がどのように希望を持てるかという点については、委員として議論していかなければならない課題であると思う。</p> <p>その上で、市民が希望を持てる計画とはどのようなものか、委員の皆様にも考えていただきたい。</p> <p>資料4上段右側の最後に「人口減少を前提に、持続可能な地域社会へ」と記載されているが、持続可能な地域社会へ変化していくこと自体が、市民にとって希望を実感できる姿の一つではないかと思う。</p>

発言者	議事内容
委員	<p>私が住んでいる地域も、まさに人口減少が進んでおり、街を見渡すと空き家が増え、地域の活力が低下していると感じる場面がある。</p> <p>そのような中でも、現在暮らしている地域に希望を持てることや、日々の生活の中で前向きな気持ちになれるような地域環境へ変化していくことが大切ではないかと思う。誰もが安心して気持ちよく暮らせる地域であることが重要であると感じている。</p> <p>一方で、現状としては、まだそのような実感を十分に持っていない部分もあると感じている。</p>
会長	<p>重要な視点であると思う。持続可能性や環境整備といった観点は、今後の議論を進めていく上での一つの切り口になるのではないかと思う。</p>
委員	<p>今の意見を踏まえての思いつきではあるが、このデータからは、大きく二つの視点が見えてくるのではないかと思う。</p> <p>一つは、市内または周辺地域に働く場があること、もう一つは、アンケート結果にも表れている「安心して暮らせること」である。たとえ仕事のために市外や近隣地域へ通う場合であっても、村上市で安心して暮らせるという実感を持てることは重要ではないかと思う。</p> <p>先ほど申し上げた消防救急分野については、緊急時に対応してもらえという安心感から一定の満足度がある一方で、日常生活においては、かかりつけ医や産科医療などに不安を感じている人もいるのではないかと、このデータを見て感じた。</p> <p>そのため、「安心して暮らせること」は、今後のまちづくりにおいて重要な要素になるのではないかと思う。</p>
委員	<p>人口が増加するかどうかという点については、増加へ転じさせることは容易ではないと思う。これは村上市に限らず、人口減少の流れに抗い、人や子どもの数を増やしていくことは全国的にも難しい課題であると感じている。</p> <p>そのような中で、どのような取組が必要かを考えた際、今回特に印象に残ったのは、資料6のヒアリング結果における、移住者からの「情報不足」に関する意見である。</p> <p>具体的には、空き家情報が不足していることや、移住後に必要となる情報が十分に得られないこと、情報発信が弱いことなどが挙げられていた。</p>

発言者	議事内容
	<p>こうした情報提供や情報発信の充実は、比較的取り組みやすい分野ではないかと思う。実際に村上市で暮らしたいと考えて移住してきた方々に対し、必要な情報を適切に届けることで、安心感や定住意識につながる部分も大きいのではないかと感じた。</p> <p>少なくとも、「情報が不足していることで困る」という状況を減らしていくことができれば、暮らしやすさや幸福感の向上にもつながるのではないかと思う。</p>
会長	<p>環境、持続可能性、労働環境、安心、情報といった視点に加え、別の観点として、次世代へ引き継ぎたくなる文化や歴史を持っていることも重要ではないかと思う。</p> <p>そのような地域資源があることで、子どもや孫の世代へ村上を引き継いでいきたいという意識につながり、それが地域への希望にも結び付くのではないかと考える。</p> <p>たとえ人口減少が進み、いわゆる限界集落と呼ばれる地域であっても、そこに先人から受け継がれてきた歴史、伝統、文化、習俗が存在していれば、「自分の代で終わらせるのではなく、次の世代へつないでいきたい」という思いが生まれる可能性がある。</p> <p>その担い手は、地域外から来た人や、これまで縁のなかった若者であるかもしれないが、そのような人たちが地域に関わることで、地域に新たな希望が生まれるのではないかと思う。</p> <p>歴史、伝統、文化、習俗といったものも、地域に希望を持たせる重要な要素になり得ると考えている。これは私自身の意見である。</p>
会長	7 議事(2)将来像・基本理念の方向性と考え方について[進行]
事務局	[資料説明]
会長	今回は言葉までは決めないということであるが、言葉を決めるのはいつになるか。
事務局	今回の審議会で方向性を決めたいうえで、次の8月の審議会までに案を作成してお示しできればと考えている。

発言者	議事内容
会長	<p>本日の会議時間は限られているため、本日の発言だけでなく、8月の次回審議会までの間に、委員の皆様から追加の意見や提案を提出できるような体制を整えていただきたい。</p> <p>例えば、「この言葉を入れるべきではないか」「この言葉はこのように定義した方がよいのではないか」といった意見を、一定の期限を設けて募集する機会があってもよいと思う。事務局において、8月の素案提示から逆算したスケジュールを整理し、6月から7月頃にかけて、委員からアイデアや意見を募集する機会を設けていただきたい。</p> <p>本日の限られた時間だけで議論を完結させるのではなく、継続的に意見を集めながら検討を深めていくことが重要であると思う。</p> <p>今回は、将来像や基本理念の具体的な文言を決定するというよりも、方向性や進め方について確認する段階であると理解している。</p> <p>事務局としては、「変えないことは停滞につながり、変えすぎることは断絶につながるため、適切な進化を目指す」という方向性を考えているとのことである。</p> <p>将来像についても、「笑顔のまち村上」「あふれる笑顔のまち村上」と続いてきたこれまでの流れを踏まえつつ、「進化」という考え方のもとで次の将来像を検討していくということであり、具体的な文言については今後整理していくことになる。</p>
委員	<p>資料8の内容について、個人的には全体としてよく整理されており、これまでの計画との継続性も感じられることから、概ね良い案であると考えている。</p> <p>その上で、様々な意見を踏まえながら検討していく必要があると感じたのは、中央に示されている「将来像と進化のストーリー（案）」の部分である。</p> <p>3つの案はいずれも基本的な方向性は共通しているように感じるが、それぞれの案に込められた意図や考え方について、もう少し詳しく伺いたいと思った。</p>
事務局	<p>1番目の「あふれる笑顔が未来へつながるまち」、こちらは今までの笑顔を入れて、持続可能な意味合いを込めて「未来へつながるまち」とした。2番目の「変化にしなやかに対応し」というのは、先ほどの人口減少をなるべく真正面から捉えられるような形にして、その人口減少に対応したまちにしたいという思いを込めたものである。3番目の「心つながる私たちの村上」、これは、分野横断的な考えを表したのが「心つながる」という意味合いで、3番目の案を提示した。</p>

発言者	議事内容
委員	<p>今の説明を伺い、個人的な印象としては、案1は現行の総合計画の考え方や流れをできる限り継承しようとする考え方であると理解した。</p> <p>また、案2については、人口減少などの課題をより重視し、現実を踏まえた将来像を意識した案であると感じた。</p> <p>案3については、比較的短い言葉の中で、分野横断的な考え方を含めた包括的なイメージを表現しているものと受け取った。</p> <p>現時点で、個人的にどの案がよいという考えはまだないが、他の委員の様々な意見も踏まえながら、今後検討していくことが望ましいのではないかと思う。</p>
会長	<p>追加で確認したいが、この案1・案2・案3については、あくまで委員にイメージを共有するための例示であり、この内容をそのまま8月の案として提示するという趣旨ではないと理解してよいか。</p>
事務局	<p>まるっきり何もない状態でお願ひしますと言うと議論が進まないかなと思ひ、あえてイメージを持ってもらうために提示させていただいた。</p>
会長	<p>全く何もない状態で議論をお願ひすると、議論の方向性が定まりにくいと考えたため、イメージを共有していただく目的で、あえて案として提示したものである。</p>
	<p>[反対意見なし]</p>
会長	<p>それでは、この方向性及び考え方にに基づき、今後の検討を進めていくこととする。</p>
委員	<p>確認であるが、意見や案の提出時期について、具体的なスケジュールはどのように考えているか。</p>
会長	<p>現時点で明確な期限を示すことは難しいが、8月開催予定の第2回審議会以案を提示することを踏まえると、事務局での整理作業も考慮し、6月末から7月中旬頃を目安として考えてはどうか。</p>

発言者	議事内容
事務局	事務局としては、今ほどご意見いただいたとおり、次回第2回審議会が8月20日に予定されていることを踏まえ、7月中旬頃を目安に、改めて皆様へご案内したいと考えている。
委員	意見提出の内容としては、将来像や進化のストーリーに盛り込みたい言葉や表現、また、基本理念である「創る・育む・広げる」に込める意味や考え方などについて、自身の考えをメール等で提出する形でよろしいか。
会長	委員が意見を提出しやすいよう、記載様式についても工夫していただきたい。
会長	[議事終了 進行を事務局へ]
事務局	8 その他[進行]
	[次回開催予定等について連絡]
事務局	9 閉会[進行]